



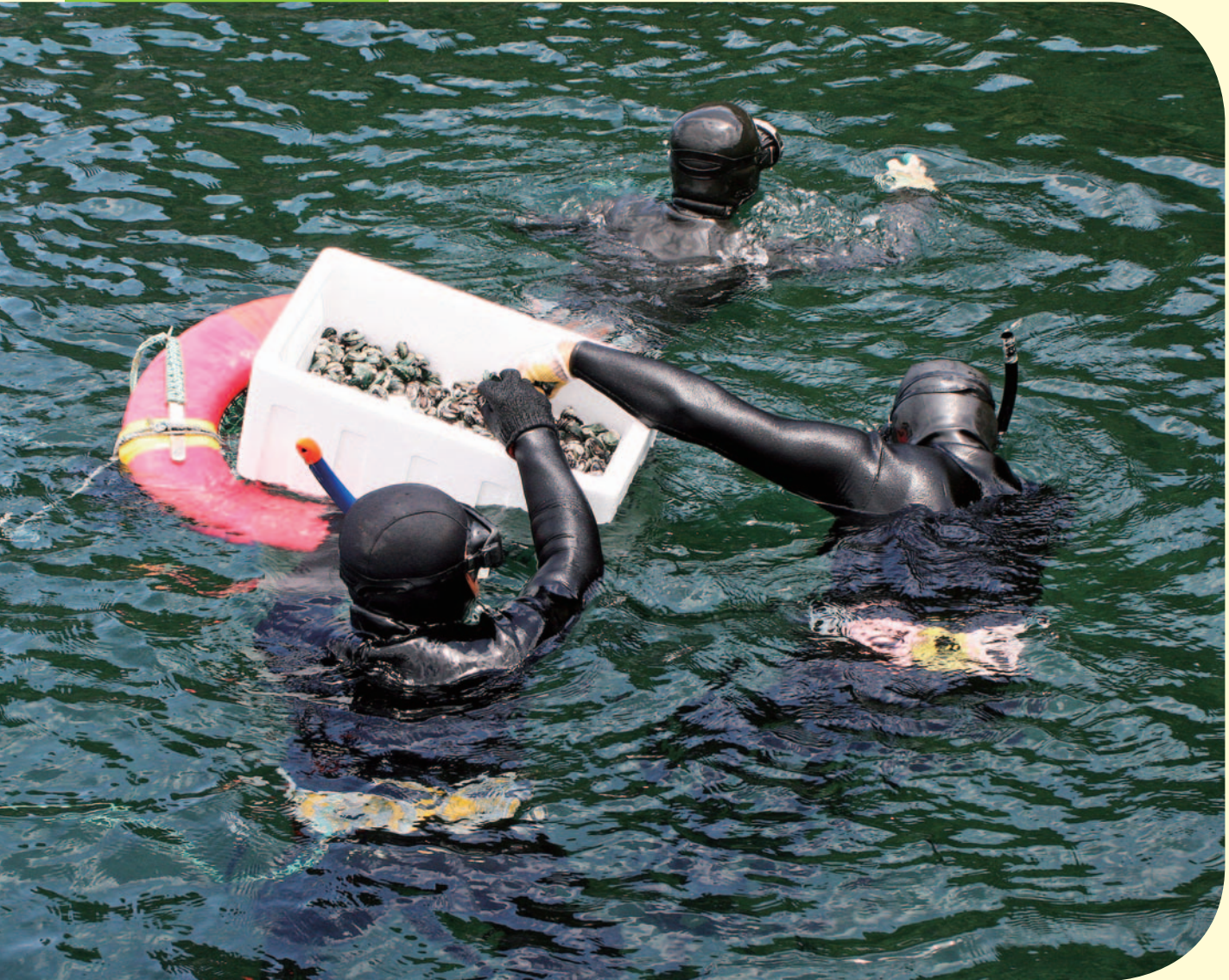
No.26

平成24年7月24日発行

おおい町

# 議会だより

Ohi Town Assembly Official Report



アワビ稚貝放流 大島沿岸にて

## Contents

- こんなことが決まりました ..... 2
- 町政ここが聞きたい！（6月定例会） ..... 4
- 研修視察報告 ..... 9
- 再起動に関する見解 ..... 10
- あれからどうなったの？ ..... 11
- 輝く人 ..... 12



# 大飯3・4号機再起動容認

議会は5月7日の全員協議会の場で時岡町長から「大飯3・4号機に再起動に関し町民意見の集約と議会の意見を聞かせていただきたい。」との要請を受け副議長を長とし各委員会委員長をメンバーとする作業部会（議長はオブザーバー）で9回にわたる議論を行いました。

5月14日の全員協議会に作業部会議論結果を報告し、議員各自が意見を述べ合う自由討議を経た後に採決を行い賛成11、反対1で再起動を容認することとしました。町長に口頭で伝えた再起動容認の内容については10ページに掲載してありますのでご覧ください。



■第2回議会臨時会 4月24日

## ●おおい町条例の制定

○うみんぴあ大飯賑わい創出施設の設置及び管理に関する条例の制定  
同施設の管理を指定管理者に行わせることや、利用料金の上限を定めるもの。  
(全会一致・可決)

## ●工事請負契約の締結

○大飯中学校校舎耐震補強工事  
大飯中学校校舎の耐震補強を行うもので、株式会社荒木が1億1千20万円で落札しています。  
(全会一致・可決)

## ●おおい町固定資産審査委員会委員

おおい町固定資産審査委員会委員に新谷省三氏（大島）、成瀬源太郎氏（久保）、山下利憲氏（名田庄井上）の3氏を選任するもの。  
(全会一致・可決)

## ●おおい町教育委員会委員の任命

おおい町教育委員会委員に細川和博氏（名田庄口坂本）を任命するもの。  
(全会一致・可決)

## ■第3回議会定例会 6月12日

## ●報告事項9件

町から議会に以下の報告がなされました。

○平成23年度繰越明許計算書

○おおい町が関連する4株式会社、3財団法人、1公社の経営状況

## ■第4回議会定例会 6月26日

## ●おおい町条例の制定

○住民基本台帳法の一部を修正する法律等の施工に伴うおおい町関係条例の整理に関する条例の制定  
外国人を住民基本台帳の適用対象に加えること及び他の市町村に引越した後も引き続き住民基本台帳を

使用する事ができるようになる法律制定によるため。  
(全会一致・可決)

○おおい町英語指導助手の報酬及び費用弁済に関する条例の制定  
英語指導助手の報酬を固定制から一定の範囲内で勤務年数及び勤務成績に応じて任命権者が定めるようにしたものの。  
(全会一致・可決)

●福井県後期高齢者医療広域連合規約の変更  
住民基本台帳法の改正に伴う福井県後期高齢者医療広域連合規約の変更。  
(全会一致・可決)

## ●平成24年度6月補正予算

所要の経費を追加する一般会計補正予算は、予算決算常任委員会に付託され審議・報告の後、原案どおり可決しました。

## ■一般会計補正予算

2千989万円

## 【主な歳出】

○保育施設等整備補助事業  
本郷保育園の総合遊具の修繕およびメンテナンス工事補助金。  
200万円

こんなことが決まりました

○過年度発生山地災害復旧事業

本郷地係（潮音院裏） 山地崩壊に伴う地質調査。

350万円

■特別会計補正予算

305万円

〔主な歳出〕

○東中部地区簡易水道施設管理事業

名田庄三重地係東部地区配水池流量計取替工事。

250万円

●工事請負契約の締結

○菌床シタケ栽培施設改修工事

久保地係において菌床シタケ栽培施設改修工事を行うもので、入札の結果、有限会社柿本工務店が6千200万円で落札しています。

（全会一致・可決）

○うみんぴあ大飯賑わい創出施設建設工事

成海地係においてみんぴあ大飯賑わい創出施設建設工事をおこなうもので、株式会社こんどつが5億3千500万円で落札しています。

（賛成多数・可決）

○漁業集落環境整備工事

大島地係において公有水面を埋め立てるもので、株式会社こんどつが

5億925万円で落札しています。

（全会一致・可決）

○犬見浄水施設改良工事

犬見地係における浄水施設にクリプトスポリジウム対策を行うもので、荏原商事・時岡組が1億7千298万円で落札しています。

（全会一致・可決）

○給食センター厨房機器購入

給食センターの食器洗浄器を購入するもので敦賀機装(株)が1千280万円で落札しています。

（全会一致・可決）

●陳情

○非核平和都市宣言採択についての陳情

（全会一致・不採択）

○北朝鮮による日本人拉致問題の早期解決を求める意見書提出の要望

（全会一致・採択）

○農業・農村の安全対策と農業の発展に向けた要請

（全会一致・採択）

○原子力発電所警備に関する意見書について

（継続審査）

●新議長に中塚寛議員を選任

新谷欣也議長辞任に伴い、議長選挙を実施したものを。

# おい町関連3セク会社決算報告

（単位：円）

	(株)おい	(株)名田庄商会	わかさ大飯マリンワールド(株)	(株)名田庄ウッディセンター
売上高	581,114,002	237,648,145	30,592,204	25,054,826
営業利益	-12,322,980	-6,671,760	-22,883,048	1,593,012
経常利益	2,055,373	-5,428,267	-24,490,922	2,187,958
当期純利益	1,536,010	-3,988,841	20,061,322	1,408,630
人員数(人)	110	17	3	3

おい町が出資する株式会社平成23年度決算報告がおこなわれました。

(株)おいは、一般管理費が大きいため営業利益はなくなっていますが、電源立地給付金等による営業外収益で埋め合わせをして経常利益を出している現状です。

(株)名田庄商会は、売上に対する利益率が低い事と一般管理費が大きいため経常利益、純利益とも赤字となっています。

わかさ大飯マリンワールド(株)は、収入が土地賃貸料のみという状況である事、経常収支赤字を補っている特別利益は地区内工事発注のためである事を考えると特殊な状況にあるといえます。

(株)名田庄ウッディセンターは、震災復興による需要増と間伐材の堅調な需要により前年度実績を上回る成績を上げることが出来ました。

厳しい決算の会社でも、細かくみていくと売上を伸ばしている部門もいくつかあるので、十分に事例研究を行い見習ってほしいと思います。

各社とも町関連の会社で、町民に対する職場提供や町特産品の開発といった公的な側面を持ち合わせるため、全く一般企業と同じ数値で判断するわけにはいきませんが、少しでも優秀な成績を出していたら、将来はおい町を支える事の出来るような会社に育ってほしいと思います。

こんなことが決まりました

6月定例会では、5人の議員が一般質問をしました。

北陸新幹線若狭ルートでは小浜・大阪間が約19分となるが、その意義は

副町長 沿線地域に飛躍的な発展をもたらす



今川 直樹

別相談窓口が設けられるほか、離職者への雇用・就業機会の提供を目的とした施策が講じられた。

町の対策事業は。

問 (町長) 中小企業診断士の派遣制度や中小企業への融資制度利用者の利子2分の1を補助する。また、プレミアム商品券発行も

答 (町長) 中小企業診断士の派遣制度や中小企業への融資制度利用者の利子2分の1を補助する。また、プレミアム商品券発行も

問 利子補給は、非常事態であるから2分の1と言わず高率補助にすべきだが。

答 (町長) 過去の事例もあり不可。事業者は自助努力すべき。サッカー場やにぎわいの創

設施設整備費に比べれば極めて少額である。町長の決断次第であるから再考を。

問 (町長) 借入を増やし体質強化され定検を待つてほしい。見直しの考えはない。

北陸新幹線敦賀以西ルートは若狭ルートで整備されるべき

副町長 政府見解は財源の問題で現時点では難しい

北陸新幹線の意義は。

問 (副町長) 日本海国土軸の形成や国土の均衡ある発展と大規模災害時のバイパス機能を果たし有意義と考える。また、沿線地域に飛躍的な発展をもたらす。

答 (副町長) 日本海国土軸の形成や国土の均衡ある発展と大規模災害時のバイパス機能を果たし有意義と考える。また、沿線地域に飛躍的な発展をもたらす。

問 国は敦賀以西ルートでは3案を示し県民に揺さぶりをかけている。

答 (副町長) 当地域は関西圏との繋がりが深く若狭ルートが望ましい。

問 強力な運動を展開すべきでは

答 (副町長) 昨年の政府与党の取り扱いで敦賀以西ルートは財源問題で難しいと付記された。

問 敦賀以西ルート明示が遅れている理由には、財源が膨

大であること。県内で若狭ルートで意思が一本化されていないことや、リゾート新線が影響していることなどがあげられるが。

答 (町長) 嶺南の首長は若狭ルートで統一され、今後取り組んでいくことで申し合わせた。

問 財源がなければ財源が出来るまで辛抱強く待つべきである。未来を拓く地域おこしの画期的な基盤整備である。孫やひ孫のために譲れないルートである。

答 (町長) 嶺南首長と連携して

答 (町長) 嶺南首長と連携して





■賑わい創出施設のオープンまでのスケジュールは

町長 各部会への出店呼びかけ、出店者の研修会、指定管理者の選定、道の駅の登録などを計画、協議している



猿橋 啓一

**問** 野菜部会、加工部会、テナント部会の参加者確保はできたか。

**答** (町長) 6月14日現在の登録者数は全体で115名、出荷分類別では、野菜56名、食品38名、工芸品21名となっている。

**問** 当初予算で天候等に影響のない栽培、出荷を目指してビニールハウスの補助を決めたが利用者の申し込みはあるか。

**答** (農林水産振興課長) 現在は無いが、今後周知していく。出荷予定者を対象にした研修計画を知りたい。

**問** (町長) 出荷予定者に対して、4月27日に、開業までの会

議や研修会のスケジュールを報告した。その後5月23日には北陸農政局福井地域センターによる食品表示等の講習や若狭健康福祉センターによる食品衛生や加工場の設置についての講習会を開催し、今後7月4日に滋賀県の種苗研究農場や東近江市の道の駅で研修をする計画である。



野菜直売所のイメージ

**問** 指定管理者の決定はいつ頃になるか。

**答** (副町長) 6月1日付けで募集要項を制定し、告示をしているところである。申請期間を6

月27日から7月26日までと定めてお

り、その後審議会の審査結果を踏まえ、9月議会で議決をいただくよう進めている。

**問** 直売所運営のエキスパートの人材確保は重要で、施設長は出荷者との信頼関係が大切であるが。

**答** (副町長) 最終的には、指定管理者が中心となって体制を整える仕組みになっている。

**問** 指定管理者の募集要項では、施設の管理運営業務を総括する「施設長」の配置を要件付けており、指定管理者選考の際にはエキスパートとなりうる人材確保がなされているか見極めていく。

**答** (商工観光振興課長) 国土交通省と協議を進めてきたが、先般事前の協議を終え、8月の登録を目指して許可申請書を提出した。

**問** 登録される見込みはあるか。

**答** (商工観光振興課長) 登録の見込みはあるとみている。

**問** 施設の愛嬌ある名前が必要であると考えているか。

**答** (副町長) 「道の駅」の名前をPRしたい。

**問** 対面式の観光案内の特徴は。

**答** (商工観光振興課長) 道の駅の登録に必要な要件の一つに「利用者に多様なサービスを提供するとともに、道路情報及び地域情報の発信機能を有する施設であること」が掲げられている。来訪者に直接案内する対面式観光案内をもてなしの基本として、地域のイベントや旬な情報、飲食や買い物情報等々、観光客が求める情報を提供し、道の駅として利用者の満足度を高め、リピーター獲得と更なる賑わい創出を図っていく。



対面式観光案内所

町政ここが聞きたい！

## ■原発停止中の行政の対応について 町長 経済対策を切れ目なく実施していく



森口 精治

**問** 再稼働の判断に地域経済の影響が大きな理由の一つであった。それに対して町がどのように応えたのか。

**答** (町長) 町商工会と連携し、中小企業の体質強化のためや消費の底上げを図る事業を行っている。「プレミアム商品券」は15%プレミアム付きで2千セット販売した。効果は来客数の減少に比較し、売上高減少は低く抑えられた。今後も切れ目なく実施していきたい。

**問** 新たな防災基準が示されるまでの対応は。又、町が新基準を設けてはどうか。

**答** (副町長) 現行の原子力防災計画に基づき対応することになっているが、広域的避難の場合

は「暫定措置案」として示された敦賀市へ非難することになっている。町の独自計画を持つことは連携や情報収集において様々な混乱が生じることになると思う。国や県の指針が必要である。

**問** 安全を監視するため町も参加すべきである。

**答** (副町長) 6月16日に知事の提案により「特別な監視体制」が発足した。町としてはTV会議の傍聴、オフサイトセンターへ情報連絡員の派遣、発電所での立会などを実施する。

**問** 町の安全監視組織を持つべきである。

**答** (副町長) 15条通報などの専門的な知識や判断を必要とするため、町では対応しきれないと考える。

**10条通報とは**  
原子力災害対策特別措置法第10条による特定事象が発生した場合、原子力事業者から国、地方自治体へ通報する基準のこと。

**15条事態とは**  
10条通報後、臨界事故等により一定以上の放射線を感じする事象に達したと判断した事態の場合には緊急事態宣言を出して原子力災害対策本部を立ち上げる。

## ■豊かさを実感できる町づくりは 町長 中期振興事業実施計画のもと進めていく

**問** 豊かさを実感できる町づくりについて。町の将来をどのように描いているのか。

**答** (町長) 「第一次おおい町総合計画」を具体的に推進するため「中期振興事業実施計画」のもとに必要な応じて見直しを行い住む人に豊かさを、訪れる人に感動を、を合言葉に事業に取り組んでいる。

**問** 生涯現役で過ごすための生活弱者の直面する課題をどのように認識しているのか。

**答** (副町長) 障害福祉計画や高齢福祉計画、障害者には医療費の助成、外出支援事業などの町独自の事業を行なっている。

地域の中で孤立し、生活上の不安のないように行政と地域が一体と

なつて支えていく。

**問** 産業創出や企業誘致の展望は。

**答** (副町長) 現在の経済状況は非常に厳しいところがある。

**問** 「つみんびあ大飯賑わい創出施設」で地場産業の振興、活性化、雇用の拡大に期待をしている。

**問** マリーナやホテルのような不採算部門は見切りをつけて、福祉施設に転換し、高齢者の入所への不安をなくしたり新たな雇用につながる方向を目指すべきである。

**答** (町長) 施設運営はまだ浅く、しばらくは現状を見守りたい。施設の転換については将来に判断を委ねたい。





「原発再起動要請」への判断は直接町民へ表明を  
町長 特別番組での報告と、ホームページに内容を掲載



尾谷 和枝

問

取材での「原子力エネルギーは一定期間必要」の真意は。

答

(町長) 国のエネルギー政策によるが、新電力供給方式が確立されるまでは必要であり、県の安全専門委員会の結論が、当面、安全安心の担保と考える。

問

電力供給地、消費地と呼ばれる、本来協力すべき地域の対立構図に町民は心を痛めている。立地に至った経緯や、関西圏に電気を送ることで社会貢献し産業界を支えている自負と人命を守る使命感などの想いは理解されていない。消費地が、再稼働容認後も夏のみ限定稼働を対案なく要請し、被害地元と言いつける状況をどう思うか。

答

(町長) 大変残念に思う。総理の「電力供給によって国民生活を守ること、産業を安定させること」の言葉で多少救われた思いである。

問

町民の不安材料と町行政課題は国を待たずに早期着手し、安心対策をすべきでは。

答

(副町長) 事故の知見を踏まえ、国が策定する新たな指針に沿った県の計画と整合性を図り万全な対策に見直す。秋頃を目指している。

情報公開への取り組みは  
副町長 衛星携帯電話を追加し、防災行政無線、インターネットなど多様な媒体を活用

問

オフサイトセンターの役割と活用、一般公開は。

答

(副町長) 原子力災害対策本部立ち上げ時に関係者が一堂に連携する国の施設として、大飯、高浜、美浜、敦賀の各センターを代替施設に追加改定された。見学申込

可能である。



オフサイトセンター(合同協議会エリア)

問

防災道路複雑化は、完成時期前倒しを強く要望すべき。

答

(副町長) 国や県、事業者に1日も早い完成を要請している。議会からも働きかけを。

問

甲状腺被爆を防ぐ安定ヨウ素剤の配布方法に変更は。正しく使用されるには普段からの情報提供を。

答

(副町長) 現行の計画は、県が決定し町が備蓄場所から搬送・配布する。事前各戸配布については、有効性等検討の上、国、県の判断に沿う。

問

今回の再起動は、元に戻ったのではない。エネルギー政策決定による脱原発依存の可能性など、今後の町の方針は。

答

(町長) エネルギー政策問題は国全体の方針にかかわること。大飯原発は海に向かい並ぶ建設形状と、岩盤高で比較的安全と聞く。国に於いて、活用の仕方があるのでは、と思っている。

20年後の町の将来への舵取りは

町長 若い方の発想に期待

問

地域にとって一番大事なものは雇用問題。働く場所、子ども達が帰ってくる場所があること。活気を取り戻すには、20年後の町の将来を見据えた方向性と舵取りが必要。送電線を活用し、エネルギーの町への転換、新たな取り組み、観光地としての将来、企業誘致の検討など。供給地と消費地、賛成と反対、立場を超えた協力協働も必要。町長の所見は。

答

(町長) 将来を見越した計画は難しいが大切である。中長期的には、新しいエネルギー開発に挑戦するか、新しい道へ進むのも一つの道であり、これからの若い方の生き方による。40年前に町を二分して議論したように、いろいろな議論、若い人の発想に期待する。

町政ここが聞きたい！

### ■原発再稼働を認める条件等について

**町長** 安全基準に、これで絶対ということではない、最新の知見に照らし、常に見直す必要がある



猿橋 巧

### 問

安全性の諸問題を暫定的な対策で再稼働を認めるか。

### 答

**(町長)** 原子力発電の安全対策に終りはないことを、常に心に危機感を持ち続けることを認識している。

### 問

原子力災害対策について

### 答

**(副町長)** 2月に県が示した「避難に関する暫定処置案」が基本になる。県域を越えた避難計画は、国の調整機能が動いていない現状で、県が独自に策定できる暫定的処置である。

### 問

30項目の安全対策が管理項目として理解されているのか伺う。

### 答

**(町長)** 原子力規制委員会の発足を視野に入れながら対応する。現状での安全対策が、すべての技術的な知見を生かした項目で完結されているものではない。

### 問

放射線等に関する副読本について

### 答

**(教育長)** 文部科学省が放射能等について理解を深め、学び自らが考え判断する力を育成する。さらに新しい知識を順次取り入れ、指導の一助とするため小・中・高等学校において段階的に現状の認識を正しく理解させる。



放射線副読本

### ■交通安全に対する諸問題の取組みについて

**町長** 安心通学路スクラム作戦で意識づけと実施指導を行う

### 問

通学路の安全対策は。

### 答

**(教育長)** 国においては「通学路の交通安全確保の徹底」と合わせて、通学路における「緊急合同点検等実施要綱」が示された。今後は関係機関と相互的に連携し通学路の安全対策を実施していく。

### 問

本町の交通危険箇所は何件あるのか。

### 答

**(副町長)** 町内に38ヶ所ある。今後は交通危険の諸条件と合わせて、交通マナーを守る等交通安全指導を総合的に進めていく。

### 問

高齢者交通事故防止のための運転免許自主返納について

### 答

**(総務課長)** 23年度の高齢者による返納者はおおい町ではなかった。昨年の返納者は小浜警察管内で38名である。

返納された高齢者方には、交通機関の補助・住民基本台帳カードの交付無料化等の支援策を実地している。

### ■みどりの広場整備事業の見直しについて

**町長** 地域のスポーツ振興と総合交流のつながりに期待する

### 問

優良な企業誘致場を潰してまで行う箱物行政は、抜本的な見直しが必要ではないのか。

### 答

**(副町長)** 造製業用地と定め、長年にわたり企業誘致に努めてきた。しかし、長引く経済の低迷と合わせて、社会情勢や地域経済環境の変動等から土地の有効活用の再検討を行い、運動公園用地として方向性を見出した。

### 問

みどりの広場整備は過剰投資ではないのか。

### 答

**(副町長)** 一定の競技水準を満たしたサッカー場等を有する「みどりの広場」として総合整備をすることで、誰もが生涯において豊かで人間性を育み、多くのスポーツ等を通じた地域交流に繋がるものとして期待できる。

●他に、原発再起動判断について、  
①断層・地震・津波による対策、  
②防波堤の対応、③新免震事務棟、  
④技術的な見知えられた30項目の安全対策等の質問がありました。



## 「議会報告会」を開催しました

4月19・20日町内4会場で「議会報告会」を開催しました。

平日の夜にもかかわらず、多数のご参加をいただき、本場にありがとう御座いました。

今回の報告会は大飯3・4号機の再起動に関する議論が賛否両論入り乱れる中開催された事もあり、原子力問題に関するご意見、ご質問が数多く出されました。今後各委員会で問題を精査し正式回答をホームページでご報告いたします。

尚、次回第6回議会報告会は10月を予定しています。

### ■報告事項

- ・ 3月議会の主な案件
- ・ 原発に関する議決
- ・ 委員会活動

### ■皆様からのご意見・ご質問 【原発について】

- ・ 地元経済への影響
- ・ 避難道路建設
- ・ 反原発運動と報道



- ・ 安全、安心対策
- ・ 再起動について

### 【議会活動】

- ・ 予算審議について

### 【町行政運営に関して】

- ・ 賑わい創出施設について
- ・ 企業誘致について
- ・ 観光活動について
- ・ みどりの広場について
- ・ 鳥獣害対策について
- ・ 高齢者支援について
- ・ 自主防災組織について

### 【重要望事項】

- ・ 嶺南、嶺北の地域間格差

## 議会広報 研修会 報告

【研修日時】平成24年6月1日

【研修場所】福井県自治会館

【参加者】議員5人

【講師】芳野政明

### 「伝える広報」から

### 「伝わる広報」へ

去る、6月1日自治会館で町村議長会主催の議会広報誌担当委員会の「議会広報クリニック研修会」がありました。

昨年度に各町村が発行したそれぞれの広報誌について、講師から逐一評価されます。どの町村も毎年クリニックで指摘されているので、全般に昨年度よりも良くなっているという評価されました。今回も、発行目的に沿った企画・編集になっているか、読みやすさ、わかりやすさへの編集技術などの審査基準でクリニックが行われました。

その他技術編では、世論調査では議会の現状に60%が満足していないとの結果が出ている。その理由は、議会の活動が伝わらないからが半数以上であると。昨今、議会の広報活動・広聴活動の役割が一段と高まってきており、議会広報誌の役割は益々大きくなりつつ



あると指摘されている。

私達は、この研修で学んだ、広報誌の使命である「住民が読むもの」を念頭に①議会が身近に感じる内容 ②今、どんな審議をしているのか議事の公開 ③読者をひきつける紙面づくり ④迅速に伝えるなどをモットーに、住民の皆様のご希望や評価をいただきながら、更により良い紙面づくりを目指して行かなければならないと感じました。

## 大飯原子力発電所3、4号機再起動の同意判断に関する見解

(平成24年5月14日)

おおい町議会は4大臣会合における「大飯原子力発電所3、4号機の再起動判断」の説明で言及のあった、福島事故の知見を反映した再起動判断基準に整合した安全性の確認と、安全性に上限を設けず継続的に迫り得る姿勢、および原子力発電の必要性について概ね理解し、住民意見の集約に加え、電力消費地の生活や経済に及ぼす影響を考慮の上、同意することとしました。

今後、地元の判断はそれぞれの機関において検討され、再起動の最終決定は政府の責任においてなされるものと認識していますが、その重大性と権限を超える議論も視野に入れた判断を強いられることに加え、政府の姿勢を含め、不確定要素が存在する状況での議論であったことから、原子力政策の一元的管理責任を担う政府の誠意ある継続的な対応を促すよう要請いたします。

尚、議会での議論の経過とその主な内容について述べます。

議会では「原発問題に関する統一見解」を基にした「福島事故後の大飯原発に関する決議」により政府に対して安全確保と経済・財政に関する要請を行いました。その結果、現行法令上の規制要求を超える安全基準をもって安全の確保がされました。しかしながら安全の確保は、常に新たな知見を反映した安全性の追求が必要となります。よって、政府

においては、関係規制法の改正や原子力規制庁の発足を待つことなく常時、安全性の向上に努められるべきであります。その上でできるだけ迅速な規制庁の発足が望まれます。

加えて、稼働停止中の地域経済や雇用に対する救済措置については具体的な対策が必要です。

さらに、福島原発事故を契機に原子力政策の根幹に何らかの変更をきたすことが推測されます。エネルギー基本計画の見直しによって地域づくりのよりどころとしてきた立地自治体の将来展望に少なからず影響を及ぼす可能性があります。我々も自治体経営の自己責任と自助努力の必要性を再認識すると同時に、政府においても国策に則って日本経済を

支えてきた立地自治体の将来に対して責任ある対応が示されるべきであります。

また、一連の国民的議論や報道内容において一般世論が立地自治体の実情と遊離している状況が散見されます。すなわち、日本経済の発展にとって必要不可欠であった人口密集地には建設できない原子力発電所の誘致をもって社会に貢献し、地域づくりの根幹とせざるを得なかった立地自治体の苦悩と実情が広く国民に理解されていない現実があります。

その背景には社会基盤整備をはじめ、拡大する地域間格差を解消するために産業基盤の脆弱な過疎の地域である、小規模自治体の現実と課題に真摯に向き合うことを避けてきた政治の仕組みが存在します。

原子力防災に関連して一例をあげれば、部分的な災害制圧道路や避難道路の整備計画が推進されつつあるものの、周辺自治体を含め、広く嶺南地域において道路網をはじめとする社会基盤整備の遅れが存在し、県内地域間格差が存在しています。防災機能の向上は総合的な社会基盤の整備状況によって大きく影響を受け

ます。均衡ある整備に向けた姿勢も今一度見直されるべきであります。

また、安全を第一とする原子力政策について市場原理主義を基軸とする企業活動に担わせてきたことが、過酷事故が発生した一因であり、今後改善されるべき点であると考えられます。

しかしながら、政府の責任において電力需給と日本経済への懸念から再起動の必要性が判断されました。

おおい町の地域経済や、雇用については長期稼働停止によって既に大きな影響を受けている現状にあり、いまだ対策が講じられていないこととの不合理性は存在するものの、議会報告会における住民意見や町民説明会において出された意見、日頃より地域住民から聞き得た切実な思いや目の当たりにする生活の実情などを総合的に判断すると、大飯原発が必要とされる期間、立場の違いを超えて、存在する個々の原発の安全確保を最優先とする政府の求心力発揮に期待し、一元管理責任のため遂行をもって再起動に同意いたしません。



# 追跡

1年前の一般質問

## あれからどうなったの？

a follow-up survey

議会だよりでは、定例会での一般質問の要旨を掲載していますが、議員からの提案などが、その後どのように町政に反映されたかを、追跡調査してみました。今回は、平成23年6月定例会からピックアップしました。



### 豪雨時の浸水対策は？

5月30日の豪雨の際に浸水に対する対策は万全だったか。

(猿橋啓一議員)

町長答弁

### 各所ポンプで排水した

佐分利川の基準点で規定の水位に達し、既設、仮設ポンプで排水作業をした。

どうなった？

### 監視カメラを設置する

佐分利川の基準となる水位を監視する事が出来るカメラを設置する。



青戸大橋



### 原子力災害時に避難道路は機能するか

原子力災害時に県道赤礁崎公園線は機能するのか。

(浜上雄一議員、松宮史知議員)

町長答弁

### 国、県へバイパスの建設を要望する

災害に強い安全で迅速に移動できるバイパス的的道路建設を要望する。

どうなった？

### 本年度測量調査、設計に着手

犬見一大島間3.3km(トンネル部2.3km)の測量調査、設計に着手した。

あれからどうなったの？

# 魔法のフラワー

## 久保区 柿本 紀子 さん

昨年の文化祭で「え～これ茎どうなってるの？」生け花やブーケとは別物の素敵なお品展を見て驚きました。

フラワーデザインの講師で、アレンジメントを教える紀子さん。自宅や、公民館、中学校文化祭、小学校、婦人会などでの教室が好評で、ブライダルブーケの製作を依頼されることもあり「喜んでもらえるのが嬉しい」と話されます。きっかけは、10年前に偶然見かけた作品展で斬新さにショックを受け「私にもできますか？」と即教室に通い始めたこと。資格を持つ現在も師の元へ通い、さらに感性と技に磨きをかける勉強家ですが、「力まず楽しんでる」そう。

あのいろんなアイデアはどこから？「詩集や絵画や映画を見て、感情やインスピレーションが色やイメージで湧いてくる感じ」とは、さすがです！教材料費を抑える工夫とアイデアも。庭や自然の花もまぜたり、木や竹、炭、石、缶など身の回りの物を器に。飾りつけに使うビーズに弁当のふたをレンジでチンなど、聞いてビックリ！



今後は、仲間と山川登美子の詩とフラワーアレンジのコラボを計画中。「花のある生活を子ども達に伝えていきたいな。花が一輪あると心が優しくなるし、豊かになる。ほらね！」と魔法を見せてくれました。

(尾谷 記)

# 輝く

かがや



## トリアスロンの楽しみ

### 成和区 眞部 義郎 さん

体力維持のために始めたランニングに始まり、その一環で水泳や自転車も体力維持のトレーニングのひとつとして取り入れた頃に自転車やトライアスロンをやっている先輩の影響で、自転車競技やトライアスロンを始め、気が付いたらトライアスロンにのめり込んで十数年が経ちました。

私にとってのメインレースは鳥取県米子市で開催される皆生トライアスロン、石川県珠洲市で開催される珠洲トライアスロンです。皆生トライアスロンは水泳3キロ、自転車145キロ、ランニング42.195キロのアイアンマンクラスの大会で、私が完走するには12時間以上の時間を要します。

その12時間の間にはそれぞれの競技で苦しい時間帯があるのですが、それを乗り越えるとまたエネルギーが湧いてきたり、3つの競技の何かが調子が良かったり、悪かったり、途中痛みが出た部分が長い時間の間に回復したりとレースを行うたびにドラマが生まれます。ゴールした時の達成感はもちろん、そんな3つの競技の変化やそれぞれの競技で起こるドラマが面白くて、決してがんばり屋ではない私でもここまでレースに参加し続けてこれたのでしょう。とはいえ、これまで体を酷使してきましたので、無理せず、自然体でトライアスロンを楽しんでいきたいと考えています。

## 議会の傍聴に来てみませんか

おい町議会では、本会議をはじめ議員全員協議会や各委員会も公開しています。

次回の定例会は9月です。傍聴について詳しくは議会事務局(77-1111内線312)までお問い合わせください。

### 9月定例会の予定

会 期：9月5日から27日まで(23日間)

本会議：5日(議案提案理由説明)、13日(一般質問)、27日(採決)

委員会：総務・産業建設常任委員会(21日)、予算決算常任委員会(5日・18日・19日)

### 【編集後記】

原子力発電所再起動問題に揺れた数ヶ月。めまぐるしく状況が変わる中、全国から「おい町」が注目され、「再稼働」に向けて歩み始めることとなりました。これまで以上に襟を正し、課題の解決に取り組む、「おい町民」であることに誇りを持って、しっかりと前を向いた議会活動に努めます。

議会では、さまざまな議論や経過をお伝えしようと、情報公開に努めています。傍聴はもちろん、本紙面のみでなく、ホームページも活用しております。定例会議決結果や、議会報告会の結果なども掲載しておりますのでご覧下さい。

また、要望があれば「出前懇談会」を行っておりますので、ぜひ活用下さい。

節電の夏がやってきます。お体には十分注意された上で、知恵とアイデアで協力をお願い申し上げます。

(尾谷 記)